

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(1/8)

|   | 総合評価<br>(IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算) | I<br>目標に向けた取組の進捗  | II<br>支援措置の活用と地域独自の取組の状況  | III<br>取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決 | 総合評価に係る専門家所見(主なもの)  |
|---|--------------------------------|---|---|------------------------------|---|
| <p>あわじ環境未来島特区<br/>(兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)</p> | 4.3                            | <p>4.5</p> <p><u>進捗度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー(電力)自給率 103%</li> <li>・二酸化炭素排出量 117%</li> <li>・再生可能エネルギー創出量 102%</li> <li>・竹燃料の消費量 146%</li> <li>・再生利用が可能な荒廃農地面積 104%</li> <li>・新規就農者数 104%</li> </ul> <p>等</p> | <p>4.0</p> <p><u>規制の特例等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化等</li> <li>・<u>財政支援等</u></li> <li>・洋上風力発電の事業化可能性調査</li> <li>・未利用地を活用した太陽光発電所の整備</li> <li>・<u>地域独自の取組</u></li> <li>・住宅用太陽光発電システム設置費補助金等</li> </ul> | 4.3                          | <p>・各評価項目における自己評価や地域独自の取り組み等の報告書の書きぶりから、並々ならぬ熱意が感じ取られた。新規計画の1年目に当たって全体的に順調な実施状況である。地域独自の取組については、相当活発であると評価できる。</p> <p>・竹燃料の活用や荒廃地の減少など、特徴ある取り組みが成功している。ここでの成果が他地域にも広がることが期待される。</p> <p>・新規就農者の増加は農家子弟のUターンをベースとする方針でよいと考える。淡路島の農家は園芸作でかなりの所得をあげているので、この專業農家の厚みを維持することを基本とするのがよいだろう。園芸作は労働力が必要であり、経営面積は簡単には拡大はできないので、抜けていった專業農家の後に新規参入者に入ってもらうことになるように思う。</p> <p>・再生利用が可能な荒廃農地面積については、既に最終年度実績を超えているため目標の再設定も考慮すべき。荒廃状態が長く続いた結果、再生利用が難しくなった元農地は、カウントから外れる可能性がある。分析はある程度細かく行われているが、評価書の数値も全容を説明しきれていない。</p> |